

令和3年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第3回全体会議 記録

日時：令和4年3月16日（水）
午後1時30分～午後3時00分
場所：オンライン（zoom ミーティング）

出席者

団体名・役職等	氏 名
名城大学 教授	昇 秀樹
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶
刈谷市公民館連絡協議会 書記	近藤 啓
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	清水 加代子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 副理事長	長澤 勇夫
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	大野 裕史
一般公募	面高 俊文
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

欠席者

愛知教育大学 教授	大村 恵
刈谷市小中学校長会	澤田 佳予子
刈谷市自治連合会	尾島 輝雄
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	富田 宜弘
一般公募	及川 裕太

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部	部長	岡部 直樹
市民活動部市民協働課	協働推進監兼課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	石川 孝志
市民活動部市民協働課	協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	西村 亜津
市民活動部市民協働課	主事	禰亙田 千穂
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、協働推進監が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）

2 議題

(1)コーディネーター部会について

■【資料1】を提示し、コーディネーター部会の協議事項について事務局が説明

第2回コーディネーター部会 1月24日(月)開催

(R3年度まちコ(=まちづくりコーディネーターの略、以下、まちコ。活動報告)

- ・派遣6件(自治会1件、市2件、その他3件)、のべ14人を派遣した。
- ・令和元年度実績13件と比較して新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて減少した。

(まちコゼミ)

- ・3つのテーマで開催。守随ゼミ(ファシリテーション)3回:のべ26人、大野ゼミ(オンライン支援):8回のべ33人、塚本ゼミ(広報)2回:3人。来年度は、守随さん退任により、2つのゼミとする。

(まちコ交流会)

- ・第1回11月27日(土)開催。ゼミの活動、まちコロゴの紹介、まちコ活動の収穫祭として、個人の活動を紹介しあった。参加6人。
- ・第2回3月5日(土)開催。世話人を勇退する守随さんの最終講義、参加者一人ずつお礼の言葉を届け、寄せ書きを贈呈した。参加11人。うち、今年度のつなぎの学び舎修了生2人が参加。

(つなぎの学び舎)

- ・実践編:第5回10月30日(土)ボラセンを会場にオンラインと対面を組み合わせて開催した。「私が考える話し合いの場」を発表し、受講生9人全員修了した。
- ・基礎編:10月~2月まで全6回。ボラセンにて対面開催した。最終回には人と人をつなぐ企画を発表し、受講生9人全員が修了した。
- ・結果・成果として、実践編では、オンライン実施により若い層の参加につながったこと、実践編の参加者5人が基礎編へ継続参加し、全員がまちコに登録した。

(コーディネーターのネットワーク化について)

- ・「コーディネーターを育むための3つの方策」のうち、「ネットワーク化」に着手する。
- ・まちコ以外のコーディネーターを顕在化する目的で、スポーツ推進委員、刈谷西部自治会を対象にヒアリングを実施した。

(部会での意見)

- ・地区間の経験交流の機会を設ける、地区活動やボランティア活動へ新規参加につながる情報発信の支援、まちコが活動団体について学ぶ場をつくる、等の意見が出された。

■質問・意見交換

【課題の確認と対応について】

委員:今後の展開に有効な課題が抽出できているかという視点で確認したい。つなぎの学び舎・実践編「世相に応じたカリキュラム」について、具体案があれば教えていただきたい。

事務局:団体の持続可能性を高めるために、これまで市民活動団体が単独で補助金を受けて活動していたものから、活動の対価や資金を得て、継続して取り組むにはどのような組織づくりが必要か等の視点から検討している。

委員:市から補助を受けて活動してきたが、先立つものがないと地域活動は先細りになる傾向がある。市の原資は限りがあり、行政課題も多数ある。活動が自立的に運営されるのはよいことだが、実態に応じた助成等の視点をもっていただきたい。

来年以降、市第8次総合計画が始まることを受けて、新しい総合計画に沿った市民活動支援のあり方にも焦点をあてて検討いただきたい。

【オンラインの取組からみえた長所と短所】

- 委員長：コロナ禍において、オンラインの活用が進んだことはよいこと。対面とオンラインでは手法が異なり議論の深まり方に関して長所短所がある。取組を通して把握できた点があれば教えていただきたい。
- 事務局：会議の場で議論を深めるには対面の方が良いかもしれないが、つなぎの学び舎・実践編において、若者の参加につながったことは成果である。参加者から見えてきた課題をふまえて、場に応じて使い分けをする。全てストップしていた状態から、一歩二歩でも進めることができた実感している。
- 委員長：オンラインが普及したことで、目的に合わせて選択できる状況になった。大学の公開講座ではオンラインと対面を併用開催した。原則オンラインとして、環境がない方に対面の場を用意したところ、圧倒的に高齢者が多かった。オンラインには、これまでの公開講座では参加がなかった高校生が参加しており、聴衆に差があることが分かった。今後は、双方の長短を組み合わせるよう検討を進めている。コロナ禍によって新たな見識を得ることができた点である。

【コーディネーター同士の連携について】

- 事務局：まちコだけでなく、いろいろな資源や団体をつなぎあわせる「コーディネーター」の役割を担う方がセンターの周りにもいらっしやると想定し、そのような役割の方とまちコがこんな風につながるといいなといったご意見があれば伺いたい、と大村委員からご意見をお預かりしている。
- 委員：コロナ禍で「どろんこ祭り」ができなかった代わりに「かかしコンテスト」を開催した。そうした取組において、コーディネーターの方の力を借りたいと考えている。
- 市民団体のスリーエスでは外国にルーツをもつ子どもたちの学習指導をしており、学校の中で教室を別途設けて日本語や算数を指導するなど、放課後授業として市民館などで学習している。そうした場にまちコの方が参加されるとすごくよい。地域に関わる問題であり、地域で外国の方が安心して暮らせること、地域を担う子どもたちが育っていくことを地域としてどのように子どもたちを支援していくか、をまちコが考えるよい機会である。
- 委員長：まちコの方の活躍の場につながれば好ましい。ぜひ実現していただけるとよい。まちコとは別途、スポーツ推進委員や地区組織のコーディネーターがある。異業種のコーディネーターの方とコラボすることについては、どのように考えられるか。
- 委員：できないことはないだろうが、お互いそれぞれの立場がある。
- 委員長：コーディネーター部会において、米田委員に話を伺う機会を設けることも検討いただきたい。

(2) 夢ファンド部会

■【資料2-1、2-2、2-3】を提示し、夢ファンド部会の協議事項について事務局が説明

第2回夢ファンド部会 11月5日、第3回夢ファンド部会（公開審査会）1月15日開催

（コラボ70・R2年度まちづくり活動実施状況）

- ・【コラボ70】コロナの影響により実施できなかった11事業のうち、3団体が中止、3団体が完了、5事業は3月中に事業完了予定である。R4年度へ更なる延期は認められない。
- ・【まちづくり活動】3事業のうち、1事業は中止、2事業は実績報告書が提出される予定である。

（R4年度審査結果）

- ・まちづくり活動支援事業5件の申請のうち、第2回夢ファンド部会にて書類審査を行い、3団体が通過。公開審査会をボラセンにて対面開催。3団体全て採択された。
- ・補助採択額は各団体20万円、計60万円である。

（寄附実績）

- ・毎年、寄附額に対して、同額を市が寄附するマッチングギフト方式により、市民活動支援基金に増額される。
- ・R2・3年度コラボ70事業実施に伴い、基金から2分の1を取り崩したため、大幅に減少した。

- ・R3年10月より、ふるさと納税専用サイト「ふるさとチョイス」から寄附受付を開始。寄附金の使途のひとつに市民活動支援事業を選ぶことができ、その寄附は市民活動支援基金に積み立てられる。1月以降数名から使途を指定した寄附の申込があった。

■質問・意見を出席者に確認したが、質問・意見はなかった。

(3)市民協働事業の進捗状況について

■【資料3】を提示し、市民協働事業の進捗について事務局が説明

(共存・協働のまちづくり講座 [学習編])

- ・入庁3年目職員を対象とした講座。昨年度講座延期に伴い、4年目職員と合同で午前・午後2回開催。参加64人。
- ・「協働するとはなにか」講義の後、地域づくりコーディネートゲームを使用し、協働の取り組み方を学んだ。

(共存・協働のまちづくり講座 [実践編])

- ・係長級職員を対象に、「市民が主体となる共存・協働」のコーディネーターとしての行政の役割を学ぶ。
- ・グループワークではまちコが市民としての意見を伝える予定で準備を整えたものの、コロナの影響により中止し、来年度へ延期した。

(つながるネット)

- ・PRのために出展を予定したイベントが中止。代わりにスタンプラリーを開催。台紙を3市1町の庁舎、ボランティアセンター等で配布したほか、台紙のQRコードよりつながるネットサイトにアクセスし、クイズに挑戦するしくみ。サイトのアクセス数は前年比500件増の結果となり、PRに繋げることができた。
- ・11月20日、3市1町のボランティア団体交流会をボラセンにて開催。参加13人。交流をきっかけに、他市で活動する団体の刈谷支部が立ち上がり、ボラセンに登録した。

(わがまちのまつり場)

- ・コロナ禍のため、対面で行うまつり場は中止とした。代わって、市民協働診断として、各課へアンケートを実施し、来年度の開催を予定するヒアリング・まつり場の対象事業を絞り込んだ。

(わがまちのしゃべり場)

- ・コロナ禍のため、対面で行うしゃべり場は中止とした。1月24日、企画メンバー3人とオンライン会議を開催。参加人数の減少を踏まえ、来年度以降のしゃべり場のあり方について話し合いを行った。

(わがまちのつむぎ場)

- ・12月5日、午前・午後の部に分けて開催。ボランティア団体、企業等16団体が参加。
- ・まちコが取材を行い作成した地区紹介パネルをボラセンで展示し、地区活動の周知を図った。パネルは終了後も一定期間、市民交流センターロビーにて展示を行った。

■質問・意見交換

【市民協働事業の優先順位の検討・確認の必要性】

委員長:「市民協働事業の進捗状況」に関し、2つの部会以外で取り組む市民協働事業について説明いただいた。

市民との共存・協働に関わる事業の柱として夢ファンド部会、コーディネーター部会があり、それと別にまつり場、つむぎ場、しゃべり場、まちづくり講座、つながるネット等がある。市の多数の協働事業のメニューの中で、ルーティン化している2つのメニューとそれ以外の取組があるわけだが、これらがなぜ他の事業と比べて大事なのか、これら以外で優先順位が高い事業があるのではないかとといった視点での検討も必要ではないか。市の施策全体の中で、どれが優先順位が高いか、それはなぜ大事かと自覚的に選んだ理屈づけができると説得力が増す。

事務局: 共存・協働のまちづくり基本方針には6本の柱があり、「1:人材育成」「2:情報」「3:場所」「4:財政支援」「5:行政サービスへの市民参画」「6:団体同士・異なる主体との交流・協力」である。コーディネーター部会は「人材」、夢ファンド部会は「財政」、職員研修は「人材」、つながるネット

は「情報」、まつり場は「市民参画」、つむぎ場は「団体交流」として取り組む。コーディネーターとファンドを部会として取り組む以外に、6本柱の進捗を確認することが委員会に求められており、そうした観点からご報告の優先順位が高いと捉えている。

委員長：市民との共存・協働のまちづくりに関する取組について、6つの柱があり、うち「人材」と「財政」は直近の課題として部会を設けて取り組み、その他は順次整備してきた。たとえばA4サイズ1枚で一覧性のある資料があると、全体の中で個々の事業の位置づけが分かりやすくなる。今後の委員会において、資料としてご準備いただきたい。

【市民協働事業の連携】

委員：市民協働事業として6つ挙げられている事業が相互に連携しておらず、それぞれ分かれてしまっている。まつり場、しゃべり場、つむぎ場と3つの場がある中で、それらが連携することで、行政と市民の場、企業と市民の場、企業と行政の場等と位置付けたら、企業と行政、行政と市民は取り組んでいるが、市民と企業が少なくなることが分かるようになる。そうした意味では市民の動きは見えにくい状況かもしれない。場についてはつながる形にすることにより、市民が動きやすくなる。コロナ禍で市民が動きづらかった状況もある。来年度は動けるよう、今年から下準備に取り掛かるとよい。

事務局：連携の形は検討が必要であるが、しゃべり場のあり方は引き続き検討する。まつり場、つむぎ場についても、連携の形を模索したい。

委員長：連携が可能かどうか、連携するとしたらどんな形が可能か等をご検討いただけるとよい。検討した結果、難しいということであればそのようにご報告いただければよい。

【市民協働事業の目指す姿を確認する】

委員：事業名、概要、実施内容の項目他に「目指す姿」があるとよい。何のために取り組む事業か、一覧でまとまっていると分かりやすい。将来目指す刈谷市を作るために、それぞれの場が行われていることが何のため、何を目指した取組か分かると参画しやすくなる。いわゆる社会的インパクトが見えにくく、何のためにやっているかが分からなくなっているため、市民の参加が少ないといった評価になってしまうのではないか。実際のところ市民はコロナ禍で我慢をしている状況である。

委員長：連携に関する点とあわせて、目指す姿の記載を検討いただきたい。

事務局：資料に関して、いただいたご意見を反映する。委員会における様々な議論が、基本方針6本柱に対して、進捗、成果・課題を整理し、委員のみなさんからご意見を頂けるような資料を提供したい。つながりを分かりやすく等ご指摘を念頭におき、工夫する。

委員長：個々の事業についての検討にのめりこむと、全体の中で位置付けを見失いがちになる。年に1~2回程度、全体の地図の中でそれぞれの事業がどのような位置づけにあるか確認する機会があるとよい。

3 その他

■質問・意見交換

【市スマートシティ構想への市民参画】

委員：行政、企業、市民との協働に長く関わってきた。社会が変わりつつある中、行政も変わる必要がある。市民の変化はまだない。変化が早い企業と市民との関係は、共存・協働のまちづくりを進める切り口であり、情報を得て糸口をどうつくるか考える時期である。

SDGsに関して、日本の企業は環境のみと捉えがちであるが、世界では「人権」に光が充てられており、人権に取り組まなければ取引できない環境となっている。企業は、社会との関わりをより良くしていこうと変わろうとしており、新しい資本主義にフィットした企業体制づくり、「志資本主義」という言葉も使われるようになっている。

現在刈谷市ではスマートシティ構想として、県・市、企業、病院等がコンソーシアムによりICTを活用した取組が進んでいる。そこに市民が参加していない点は懸念される。具体化する前に市民の声を反映できるよう、旗ふりの役割は行政が果たすべきである。ぜひ市民の声を織り込んでいただこうご検討いただきたい。

事務局：県から、市の先端技術を持つ企業とともに、デジタル・ICTを活用した取組を一緒に研究をしようとして打診をうけ、先ごろ研究の成果が発表された。来年度以降、取組のアウトラインを作成予定である。企業、大学等との連携を検討しており、市民がどのように関わるか、ご意見があったことを担当部局へ伝える。

委員長：ICTに関連して、SNSの発達によって小さな単位での情報発信が可能になった。寄附金や労働力を募ることは大変だったが、一人の金額が小さくてもまとまった額となる。これまでは国家やマスコミでしかできなかったことが、ICTによりつながることが大きな力となること、ウクライナ紛争においても示されている。一人ひとりの小さな善意を大きな善意に変えるしかけがICTである。スマート（賢い）なまちづくりにおいてもチャレンジいただきたい。

【第8次総合計画の進捗および共存・協働のまちづくりとのつながり】

委員：第8次総合計画の策定状況に関して、進捗状況をお聞かせいただきたい。関連する施策があれば、本委員会においても検討する必要があるのではないか。

事務局：総合計画について、現在市役所内で素案を検討中である。今後、審議会の議論を経て、夏頃パブリックコメントを予定する。

委員長：スマートシティ構想に関連して検討されると思われる。

4 今後の日程

■【資料4】を提示し、来年度のスケジュールについて事務局が説明

- ・来年度は2か年の任期の2年目にあたり、来年度も引き続きご就任をお願いする。団体内での委員の交代がある場合は、事務局へご連絡いただきたい。
- ・第1回推進委員会は5月中旬に予定する。日程を早めにご連絡する。

以上